

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>全職員が運営理念を述べる事が出来、理念に基づいてケアを行なうように取り組んでいます。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者は日常の業務の中で理念が共有できるように言葉で表現し介護者としての心構え、心のあり方を教育しています。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族に対しては契約時に文章にまとめ分かり易く説明を行っています。地域の方や訪問者に対しては、玄関に掲示して一目で分かるようにしてあります。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常も挨拶や会話、草刈りの時等近隣の住宅の方々と会話を持ち、親しくおつきあいができる様に努めています。</p>	○	<p>町内会行事等には積極的に参加し、更なる理解が得られるようにしていきたいと思います。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内のイベントには、入居者ともども参加しています。</p>	○	<p>運営推進会議を通して、より町内会行事への参加希望がある事を伝えていきたいと思います。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の中でも、地域にグループホームが有ることで、高齢者が安心して生活が出来る地域作りに役立てるように話し合いを持ちました。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎日の忙しい業務に流されてしまう時に、自己評価及び外部評価を実施することによって、今後の目標を明確にし取り組みについて改善しサービスの質の向上に生かして支援していくことが出来ます。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	サービスの実際や評価を会議の中で報告し地域の方からの意見も今後のサービスに生かせるようにします。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	研修会、講演会等、機会があれば職員が参加出来るように調整しサービスの質の向上に取り組んでいます。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は機会があれば、制度の理解と活用が出来るように研修に参加し支援していきたい。	○	研修への積極的な参加を支援し必要な人には活用出来るように支援していきたいと思います。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待は決して起きてはならない事として介護する者の「心」が介護される者の「心」に寄り添うことで、虐待が起こらないよう又見過ごされる事がないように努めています。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結んだり解約する時には利用者や家族に良く説明をし不安や疑問点を残さないように、理解納得いただけるように配慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見不満苦情については各担当者職員が日頃の介護の中でコミュニケーションを図り利用者の方の気持ちを聞くように努めています。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の来訪時、毎日の暮らしぶりなど情報提供をし金銭管理の報告と確認をしています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の来訪時には気軽に意見や、提案を出せる雰囲気です。又玄関には意見箱を設置し家族や訪問者が意見、苦情の表出が出来るようにしています。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のカンファレンスや連絡ノートで改善に向けての提案を話し合います。又気づいた時に職員、管理者で話し合い解決していくことも多いです。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	夜間専門の職員やパート職員の採用で、必要な時間帯に職員を確保することは出来ています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者のダメージをなるべく少なくする為に、新しいスタッフと馴染みのスタッフを組み合わせ勤務体制を作っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員評価制度の導入で、1人ひとりの能力に応じた力が発揮できるように、様々な研修に参加できるように取り組んでいます。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	お互いの施設の特徴を学び、サービスの向上に繋がる交換交流、研修を行っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の悩みストレスに関して話し合いの機会を持ちなるべく早い解決、解消を目指しています。	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各職員の適正を見極め、能力を引き出すことが出来るように各種の研修に参加させ、自己能力を高め各自が向上心を持って仕事が出来るように働き掛けています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	1人ひとりの人格を尊重したケアを心掛け、利用者の心に入り込むような質の高い介護を提供する為に、1人ひとりに最大限時間を取り、会話の中から不安材料を取り除くようにしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の方には、家族と一緒に利用者を支えていく気持ちを伝え、ホームの現状を知っていただく中で、今困っている事を表出できる機会を作り、それらの事を受け止める事が出来るように努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時には、本人と家族が今何が困って、何のサービスが必要か見極め、サービスの利用について共に考えていくようにしています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者本人の意思を尊重し、誰もが自立した生活が出来るように、職員、入居者、家族が協力し、ゆったりと優しい気持ちで接し、安心してサービスを利用できるようにしています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者の方をより深く理解し、人生の先輩として学ぶ姿勢を持ち、お互いを支え合う関係を築き、感謝の気持ちを伝えるようにしています。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族を通して情報を収集し日々の介護にあたり、共に本人を支えていく関係を持てるように心を聞いて受け入れるように努めています。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と、家族の関係を良く理解した上で、より良い関係を築いていけるように働きかけ支援しています。	○ 今後も本人の気持ちを家族に伝え、本人の希望が少しでも叶うように、家族に働きかけていきたいと思えます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が大切にしてきた家族や友人とのふれあいが出来るように、外出や面会を受け入れ本人との関係が途切れないように支援しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	1人ひとりを良く理解し、利用者同士がより良い関係を築いていけるように気を配り、出来るだけゆったりと会話の時間をもち、コミュニケーションを図っています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、家族との付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを汲み取る事が、とても大切な事と思うので問いかけをし、自己決定を引き出せるようにしています。	○	アセスメント用紙を今一度再考して、1人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向が分かり易く記録出来るようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始になる時には、家族の方から生活歴、日々の暮らし方、生活環境を出来るだけ詳しく聞くことが出来るように落ち着いた場所、穏やかな気持ちで時間をかけてお話ができるようにしています。	○	同上
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員は常に情報を共有し、1人ひとりが健康で安全に安心して毎日が送れるように観察し、報告しあう事を心掛けて介護に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃の介護の中で本人の気持ちを確認して、又家族の要望を取り入れ介護計画書を作成することになっています。必要に応じてサービス担当者会議を持ち、モニタリングをし、介護計画を作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	常に現状に即した介護計画書であるかを考えるように努め、対応出来ない変化が生じた時には、介護支援専門員、看護師も適切な判断の基に家族や関係者と話し合い、新たな計画を作成しています。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録のファイルに介護計画を綴じ込み、日々の記録の中に計画が生かされ、ケアの実践に役立った又、計画の見直しに活かされるようにしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の要望を取り入れ支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年1回、中学生の体験見学実習の受け入れをしています。又、町内会婦人部によるお茶会を実施してもらい、利用者さんに喜んでいただいています。今後、町内会の防災訓練などにも参加して地域に根付いたホームになりたいと思っています。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	近隣の老人施設や病院、居宅事業所のサービス利用が出来るように支援しています。市民講座の中でのグループホーム紹介のPRIに参加し、他施設の職員との交流も図っています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて、地域包括支援センターと協働しているいろいろな制度の活用などが出来るようにしたいと思っています。	○	今後も町内会役員、婦人部、地域包括支援センターの方を含めて、地域運営推進会議を開催していきたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当グループホームには、看護職員が2名おり、日々の健康管理に当たっています。介護職員の観察、報告により医療機関への受診の判断を行なっています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	市立病院や近隣の医療機関により、診断を受け指示や助言、又待ち時間の配慮をしていただけるようになっています。		
45 ○看護職との協働  事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当グループホームは2名の看護職員を確保しています。毎日のバイタルチェックにより健康管理をし、疾病の医療管理を行なって利用者の受診を支援しています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	日頃より医療機関との連絡を密にしており、入院時は利用者が安心して治療を受けることが出来るように又、早期退院に向けて、関係者との情報交換を行なっています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族や医療機関と連携を取り、重度化や終末期に向けての方針を共有出来るように繰り返し話し合っています。	○	訪問医療が受けられる医療機関を確保出来るように働きかけていきたい
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後の変化に備えて準備をしている。グループホームとして対応出来ない状態については、かかりつけ医と相談し利用者にとって最善と思われる場所を家族と共に考えていきます。	○	終末期、人生の最後を住み慣れたホームで静かに生活出来る為にはどのようにしたら良いかを課題として取り組みたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人や家族に係る関係者には、介護添書を作成し情報提供を行っています。住み替えによるダメージを防ぐように支援していきます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	1人ひとりの人格を尊重した介護を心がけ、礼節をわきまえた言葉掛けをし、個人情報の取扱いには十分注意を行なっています。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の思いや気持ちを表出できる関係を築き、自己決定が出来るようにわかり易く説明を行うようにしています。利用者が納得して生活でき、笑顔のある毎日を送ることが出来るように支援しています。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースを大切に、その日その日を本人の希望に沿って過ごせるように支援しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節やその場に合ったその人らしい服装が出来るように本人と相談し選ぶようにしています。本人の希望によって、理美容室への外出を支援しています。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	楽しみの中での一番の食事については、当グループホームが力を入れている業務の一つです。季節感のある栄養バランスを考え、又利用者の希望に添える食事が提供できるようにしています。又、個人の力に応じたお手伝いをさせていただいています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望をされる方が入居されている時は、タバコ等も他入居者の迷惑にならぬように配慮して、本人と相談の上、場所時間を決めて楽しんでいただきます。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者1人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、なるべく失敗を少なくし、トイレでの排泄が続けられるように支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	健康状態によって、入浴を楽しんでいただいています。個人の好みで、お湯の温度や時間を配慮して入浴を楽しめるように支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	会話やレクリエーション活動で、日中の居眠りを減らし夜間に安眠できるように支援しています。不眠を訴える方には足浴を行ったり、温かい飲み物を提供しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の得意分野での出番作りを支援しています。調理の中でのポイントや食後の後片付け等、気分転換に理美容室への外出や、外食なども変化の無い毎日にならないように支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小銭を自分で管理する事や、外出時の支払を自分でしていただく等、力量に応じて支援しています。管理出来ない額については金庫にて預っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に添って、買物、散歩、理美容室への外出を支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人や家族の希望による外出(お見舞、お墓参り等)が出来るように支援しています。又、日帰り温泉や、年に1回温泉旅行を実施しています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望により手紙を出したり、家族からの電話を取り継いだりは、日常的に支援しています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人の訪問はいつでも受け入れています。又、居心地良く過ごしていただけるように職員全員心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアに努め、常に見守り声掛けを行なっています。外出傾向の方には状況に合わせて一緒に散歩したり、見守りをしています。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は日中鍵をかけていません。職員で連携して見守りを行い、SOSネットワークを活用出来るように個人の服装や特徴を把握していきます。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者のプライバシーに配慮し、常に所在や様子を配慮し安全に生活出来る場の提供が出来るように支援しています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品については、明確に保管場所を取り決めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員は利用者1人ひとりの起こり得る事故について確認し合って、事故防止に取り組んでいます。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時のマニュアルが作成してあり、マニュアルに添って行っています。職員の緊急連絡網も作成しており活用しています。	○	事故発生時の手当等新しい職員が入った時にマニュアルに添って訓練を行い、普段から事故への心構えを持つようにしたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	日頃から近隣住人の方々とお付き合いや、地域運営推進会議の中でも地域の中で協力が得られるようにしています。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	1人ひとりに起こり得るリスクについては家族に説明し、身体拘束をせず、穏やかな暮らしを大切にしたい毎日を支援するように話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の健康チェック介護の中で体調の変化や異変を早期に発見し、報告し合い、職員間で情報を共有し、速やかに対応しています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は服薬の目的、用法、用量、副作用等を良く理解して、服薬の支援をしています。誤薬のないように与薬迄に3回のチェックを行なっています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘については水分摂取量や食事内容、運動等、1人ひとりに合った方法で対応しています。頑固な便秘については、かかりつけ医と相談して、指示のもと下剤、浣腸の処方を受けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、うがいを行なっています。一人ひとりの力に応じて声掛け、見守り介助を支援し義歯の消毒についても支援しています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスや水分摂取量を把握し、毎日が健康に過ごせるように支援しています。体重の増加傾向にある人や糖尿病の方にはカロリー摂取量に配慮して1人ひとりの状態に合った支援を行います。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザや肺炎に対しては、毎年ワクチン接種を実施し、経口感染による感染症の予防には食事、おやつの手洗い消毒の実施、外出から帰った時の手洗いうがいの実施に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な食材を使用し、賞味期限のチェックをしています。又、布巾、調理器具はその都度、除菌を行なっています。週1回冷蔵庫の掃除を行なっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	庭先や玄関には草花を植え、庭木の手入れも行うことによって周囲の住民との調和が取れています。表札も新しくして親しみ易くしました。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは常に清潔が保たれ、明るい雰囲気の中で過ごせるように工夫しています。デイルームには1人ひとりがゆったりと出来るソファがあり、食堂には鉢植の花がいつも咲いています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士が自由に会話を楽しんだり、テレビを観たりして過ごしています。室内犬を中心に会話が弾んだり、笑顔も多く見られ、家庭的な雰囲気作りとなっています。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人の居室は入居時に家族と相談し、自宅で使い慣れた家具や仏壇を置き、家庭的な雰囲気の居室になっています。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各室内に温度計を設置し、入居者の意見を聴きながら適切に行っています。利用者がいつも過ごすデイルームの換気は適時行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	階段は吹き抜けの為、転落防止用ネットを張っています。手すりや滑り止め等、状況に合わせて取り付け、安全かつ自立した生活が出来るように配慮しています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの場所が分からない利用者さんの為には、廊下にテープで印を付け、トイレには分かりやすく視覚に訴える工夫をしています。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭には、植木や樹木があり、日光浴をしながらさくらんぼ狩を楽しんだりします。ガーデニングや野菜を植えて楽しんでいます。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①太いには増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98 職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者か ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等か ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・看護師が2名確保されている為、医療機関への受診や薬剤管理がきちんとされ、急変時の対応が速やかである。
- ・管理者と職員の間で介護に対する思いに差が無いこと
- ・毎日の食事を大切に考え、楽しみにして食べることが出来る。そのことによって健康が保持され、重大な病気にはなりません。認知症の進行も少ない。
- ・介護者は利用者の気持ちに寄り添う気持ちでせっせするようにしているので、職員間の情報の共有ができています(カンファレンス、連絡ノート等による)。